

# コーチング

## 1 はじめに

コーチングとは、  
「相手の可能性を引き出し、その人の自主的な前進をサポートするコミュニケーションスキル」。

前提には、  
「人間は誰もが無限の可能性をもっている」「答えはその人自身の中にある」などの人間観がある。

もともと  
「コーチ」は「馬車」を指す言葉。そこから派生した「大切な人を、現在その人がいるところから、その人の望むところまで安全に送り届ける」という動詞としての意味が、現在のコーチングの考えに通じると言われている。

## 2 「コーチングによる人材育成」

学校経営課では、以前より研修講座の中で、職場の活性化や職場での人材育成に対応した内容を扱ってきたが、平成15年度より、特に職場のコミュニケーションに焦点を当て、新たにコーチングについてのセッションを設定した。

このセッションは、「コーチングの基本理念やスキルについて理解すること」を主なねらいとし、講義や演習をとおして、活用場面を想定したり、活用意欲を高めたりすることができればと考えた。ちなみに平成17年度は、宿泊研修の中で半日で実施した講座が3講座、1日で実施した講座が1講座であった。

## 3 半日の場合のプログラム

項 目	ねらいや主な内容
1 コーチングとは何か コミュニケーションの見直し コーチングの定義 前提となる考え方 今なぜコーチングか	特に、コーチングは「スキル」である前に「人間観」であることを認識する。 コーチングの基本スタンス 「equal」「Let's」「味方」 「信」「認」「任」
2 コーチングの基本スキル 傾聴のスキル ～相手の言葉をさえぎらず、 言いたいことをじっくり聴く～  承認のスキル ～相手の行動・考え・発言を 認める～  質問のスキル ～適切な問いかけによって、相手 の中にある答えを引き出す～	基本スキルを小さな演習を通じて理解する。  傾聴のスキルのポイント 聴くことの効果＜話し手側＞＜聞き手側＞  存在承認、結果承認、事実承認 YouメッセージとIメッセージ  質問のレパートリー（拡大、肯定、未来質問） GROWモデル

#### 4 受講者の感想や実際の活用

##### (1) 受講直後の感想(前期研修アンケートより)

###### 新任校長(小・中学校)及び(県立学校)

コーチングは経営に欠かせない内容であり、今後の業務に非常に役立つものと感じた。人の話をよく聴き、肯定的にとらえ、未来志向で物事を考えていくということをスキルを通して学ぶことができた。

職場はもちろんのこと、様々な場面で活用し、いい人間関係を築き、いい仕事、いい人生を経験していきたいと思う。等

###### 学校運営推進者(全校種)

人を伸ばす仕事に携わっている教員として、誰もが身に付けておきたい考え方である。カウンセリングの研修などで受けた内容をさらに深く確認ができ、良かったと思う。

多様化している生徒の性格や行動に対して、ティーチングとコーチングの使い分け、組み合わせにより、教育効果が向上するように思えた。等

##### (2) 実際の活用(後期研修アンケート等より)

###### 新任校長

職員室でのコミュニケーション

職員や保護者との相談活動

指導の視点や保護者への対応についての教職員への助言

全校集会での話や学校だより、PTA行事での保護者への挨拶

コーチング研修会の企画 等

###### 学校運営推進者

子ども理解や子どもへの言葉かけ

自分が目指す学級経営や授業づくり

日々の教育相談や夏季休業中の三者面談

仕事についてのコミュニケーション

学年研究会や授業研究会 等

#### 5 まとめ

新任校長研修講座の「信頼される学校づくり」や学校教育運営研修講座の「授業改善と学び合う職場づくり」というテーマは、コーチングのセッションと他のセッションとのより良い関係性の中で追求していくことができる。

例えば、学校教育運営研修講座の後期討議資料には、次のような記載があった。

今回の研修の研究討議資料のメインテーマである「授業改善と学び合う職場づくり」という教員としての共通課題であり目標でもある内容について、今後も継続して意識して教育活動を行っていききたいと思う。特に今回の研修を通して「コーチング」という一つのコミュニケーションの手法を学び、よりよい協働関係を作り上げていくためには、自他の専門性を高めていくと同時に相手の可能性を信じ、お互いの自己成長・自己変革をサポートし合えるようにしていきたいと思う。その上で、生徒個々の教育的ニーズをより綿密に分析し合い、教育課程の見直しにつなげていけたら良いと思っている。

今後も、受講者の率直な声や研修効果等を踏まえ、研修講座の全体像の中で、「コーチング」の可能性を追求していきたい。さらに、「コーチング研修」の内容を段階的にバージョンアップしていきたい。講師が語った「代わりに運転するのではなく、助手席に乗り助言していく」姿勢を胸に刻みながら。